

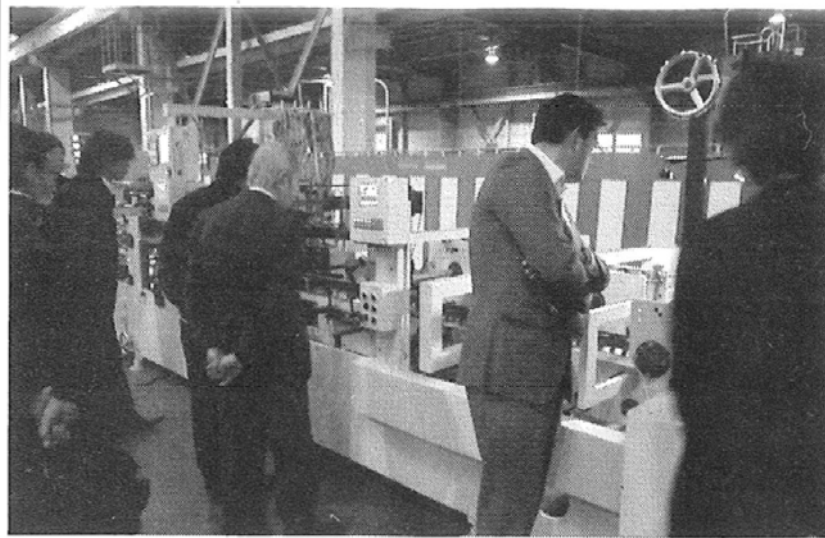
紙器・印刷版

リノベーション内覧会

日本紙工機械G

より柔軟に
新技術も紹介
「第3の選択肢」

日本紙工機械グループは1月20、21日の2日間、本社工場(茨城県利根町)で「JPC M Winter show 2017」を開き、リノベーショングループAEF-850P-I Tを実演した。第3の選択肢であるマシン再生の特長を紹介、各種新機能の充実化等によって一層柔軟な改造が可能になった点もアピールした。2日間で約20社60名が参加した。



生まれ変わったグルアの高性能に注目が集まった

早部慎一郎副社長は、
挨拶で「弊社リノベーション事業は、2年半前の夏に初めて発表し、今日まで大型機を中心に取組

様に對して貢献できるか、何度も試行錯誤した上でソリユーション。本日の実演を通じて弊社の姿勢や取組み、技術力なども感じ取っていただければ」とした。

実演に先立ち、リノベーションの基礎から新機能について説明。リノベーションは老朽化や機能低下、故障した「マシンの生まれ変わり」がコンセプトである。既存マシンのフレームなど堅牢なハード面を再利用し、電気系などソフト面を入れ替えるため、(原状回復させる修理とは異なり)現状に合った最新スペックに生まれ変わる。

新機に比べ1/2〜2/3程度の金額で済むため、第3の選択肢として提案している。新技術の搭載に限らず、消費電力を年間10%削減、段取り替え時間20%削減などの効果もある。実績は計6台(うちグルアが3台)。大型機から小型機まで対応可能である。
リノベーション方法

は、まずドライアイス洗浄装置で部品を洗浄。二酸化炭素を有効活用するため有機溶剤に比べ、人体などへの影響も極めて少ない。ほぼすべての部品が再利用できる。

再生の実例として、給紙部の独立インバータ化、給紙シャッターの現行機構化、上筈ステップ昇降化、トロンポン上駆動の独立インバータ化、バッテリーユニットの現行機構化、フック昇降のシリンダ昇降化などを挙げた。さらに、移動フレームやラック位置管理新方式の採用、新構想バックフィンガート、操作等に見える化に貢献するメインコンピュータおよび電気制御の新規設計などもある。オリジナルオプションとして異品種混入バーコード検査装置と、黒色対応高機能センサーも紹介した。

実演機は、25年前に製造され今回リノベーションしたグルア。3つツメの新機構バックフィンガーやサーボモータで複雑な折りも可能にする「新型天地折りシステム」などに注目が集まった。
同社では「前回の内覧会では、先ずリノベーションを知っていただくこ

とに主眼を置いたが、今回はより柔軟に、ベース機のフレーム範囲内であれば、各部の最適なカスタマイズ可能になった点を強調したかった。選択できれば予算面にも柔軟性が出て来る。IoTに对应すべく総合制御が可能な新台には及ばない面もあるが、非常にリノベーションのメリットは大きい。実際に、検討していただいているお客様も少なくないため、今後も期待に沿えるよう開発を進めてゆく」とした。